

農作物特報

令和5年7月25日

魚津市
魚津市農業技術者協議会

梅雨明け後、高温で経過しており、「コシヒカリ」の出穂期は、平年より3日程度早い7月30日頃と推測されます。

高温登熟、斑点米カメムシ類による品質低下に留意し、高品質・良食味米に仕上げましょう。

1 コシヒカリの葉色に注意 …淡いほ場は、追肥（追加穗肥）

出穂が早く、高温登熟の恐れがあります。

出穂前の葉色を確認し、淡い場合は、追加穗肥を施用し、しっかり養分を供給する。

【追加穗肥の目安】

出穂10~5日前(7/20~25)に
葉色が4.2未満(壤土は4.0未満)

追肥

出穂直前(7/29頃)まで
追肥3号 5~7 kg/10a

※当年は、草丈がやや長い傾向にあるため、施用時期に注意（早い施用は厳禁）。

2 出穂後の水管理

本年は、高温傾向のため、渴水が懸念されます。

用水は限りある資源です。有効利用にご協力ください。

- 水尻はしっかりと止める。
- 畦畔から漏水がないか点検する。
- かけ流しはしない。

稻の活力維持と品質向上、カドミウム吸收抑制のため、出穂期から20日間は田面が出ないよう、『湛水管理』を徹底しましょう。

【湛水方法】

- ・水深3cm程度に湛水し、田面が露出する前に再度入水する。
- ・水持ちが良くて1週間に1回は、新しい水を入水する。
- ・20日間を過ぎたら収穫の1週間前まで『間断かん水』を続ける。
(フェーン予報時はあらかじめ湛水する)

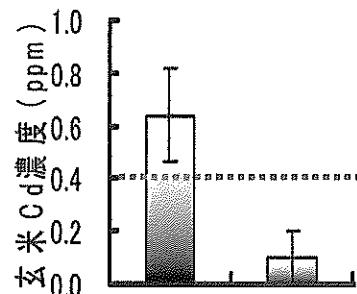


図 水稲の出穂後の水管理と
玄米中のカドミウム濃度
産米流通対策地域の県有施設
ほ場試験結果(農研コンヒカリ)

3 斑点米対策の徹底

高温年は、1)出穂がバラつき、2)斑点米カメムシ類が多発するため、斑点米被害が多発します。

- ・ほ場ごとの出穂状況に応じ、適期に防除する。
- ・畦畔や雑草地の除草管理は、本田防除の前に終える（雑草が繁茂している場合は雑草にも薬剤がかかるように散布する）。
- ・散布時期の間隔は7日間を目安とします。（10日以上あけない）

【防除時期の基本】 注) 敷農薬は、前回の管理情報を参考願います

- 1回目：穂揃期・・・ほ場全体の穂が8割～9割、出穂した頃
- 2回目：傾穂期・・・穂揃期から1週間経過した頃
- 3回目：早生は必須、中生は多発時※・・・2回目防除から1週間経過した頃
※カメムシの多発時は、再度、お知らせします。